

静脈注射認定看護師(IVナース)育成 プログラムとワーキングの取り組み

静脈注射認定看護師(IVナース)育成WG
【IVナース育成WG】



静脈注射認定看護師(IVナース)育成WG

◆目的

静脈注射認定看護師の育成を継続し、静脈注射に関する看護師の質を担保する

◆役割

- ① 静脈注射認定看護師取得に向けての取り組み
- ② 静脈注射認定看護師の育成プログラムの運営・実施・評価および認定更新制度の実施・評価

メンバー:13名	看護師長	3名
	副看護師長	4名
	(うち別府病院1名)	
	看護師	6名

令和6年度 IVナース育成WGの年間活動

令和6年度 IVナース育成WG 年間活動計画

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日			4日			5日			5日		6日	
場所			打合せ1			打合せ1			打合せ1		打合せ1	
WG		・ I V W G 打合せ 資料準備	【第1回】 ・ 第3年 ・ 年間活動計画 ・ 5回プログラム ・ 立案			【第2回】 ・ 更新活動 ・ テスト ・ 中間評価 ・ 準備		・ キャリア ・ 報告書 ・ 分担任 ・ 作成	【第3回】 ・ 更新 ・ テスト ・ 実施	・ 第3 ・ 6回 ・ プログラム ・ 準備	【第4回】 ・ 年間 ・ 活動 ・ 評価	
(IVナース認定看護師)	・ 外部 ・ 再受講 ・ 試験者 ・ 募集 ・ 確認		運営・実施・評価 ・ 地域公開 ・ 筆記試験						運営・実施・評価 ・ 筆記試験			
認定更新制度						・ 更新 ・ テスト ・ 交換 ・ 者の ・ 準備 ・ 開始 ・ 時期 ・ 告知 ・ ①		・ 更新 ・ テスト ・ 交換 ・ 者の ・ 準備 ・ 開始 ・ 時期 ・ 告知 ・ ②	・ 更新 ・ テスト ・ 事前 ・ 通知	・ 更新 ・ テスト ・ 終了 ・ 通知	・ 認定 ・ 更新 ・ 制度 ・ 評価	
その他業務	・ 前 ・ 年度 ・ プ ・ 評価	・ I V ・ 完成 ・ 冊子									・ 研修 ・ 報告 ・ 書 ・ 作成 ・ セン ・ ター ・ 報告 ・ 書 ・ 作成	

部署への働きかけ 認定・更新率の確認(通年)



静脈注射教育プログラム

IVに関する知識と手技の標準化・認定による可視化



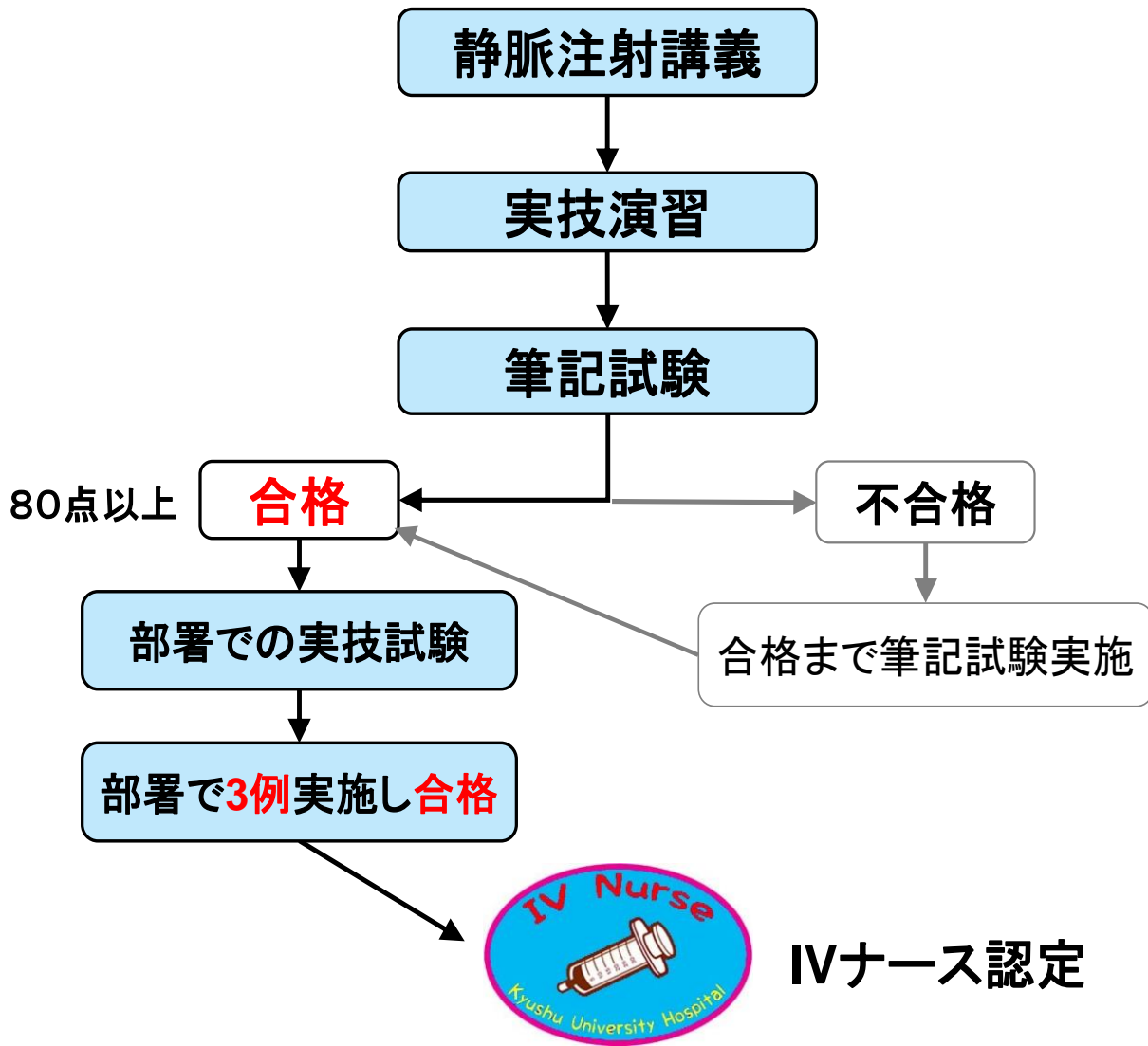
STEP4：実技試験による安全・安心な実践力確認、
評価者による客観的他者評価

STEP3：筆記試験による知識修得状況確認・客観的評価

STEP2：実技演習による安全・安心な手技・手順確認

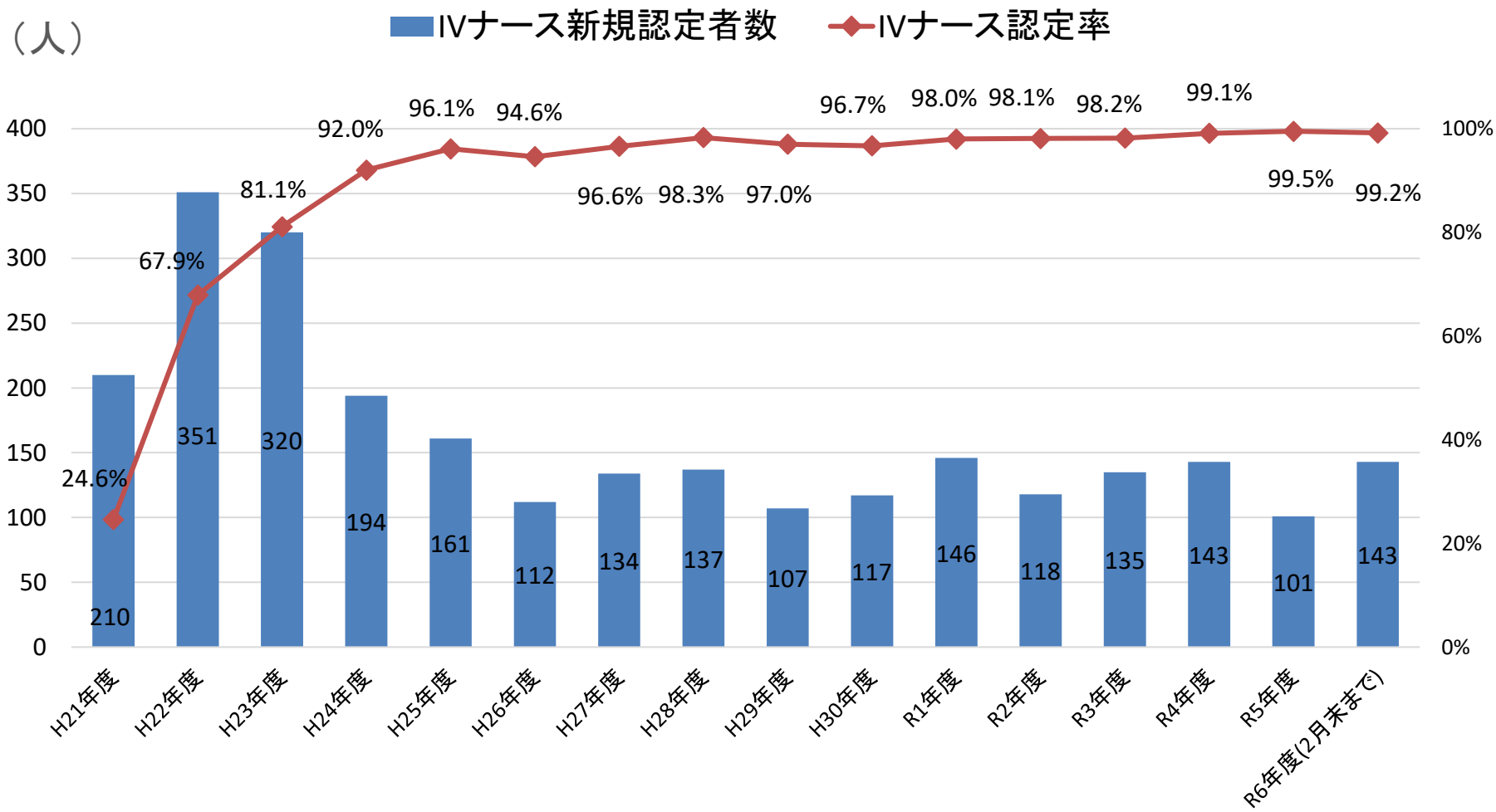
STEP1：静脈注射講義（患者看護、薬剤知識、解剖生理、感染管理、安全管理、
法的責任等）による静脈注射に関する専門知識修得、再確認

IVナース認定フロー図



IVナース認定

IVナース認定者数の推移



IVナース更新制度について

◆目的

IVナースとして安全な静脈注射実施のために、継続的な質の維持向上をはかる

◆条件

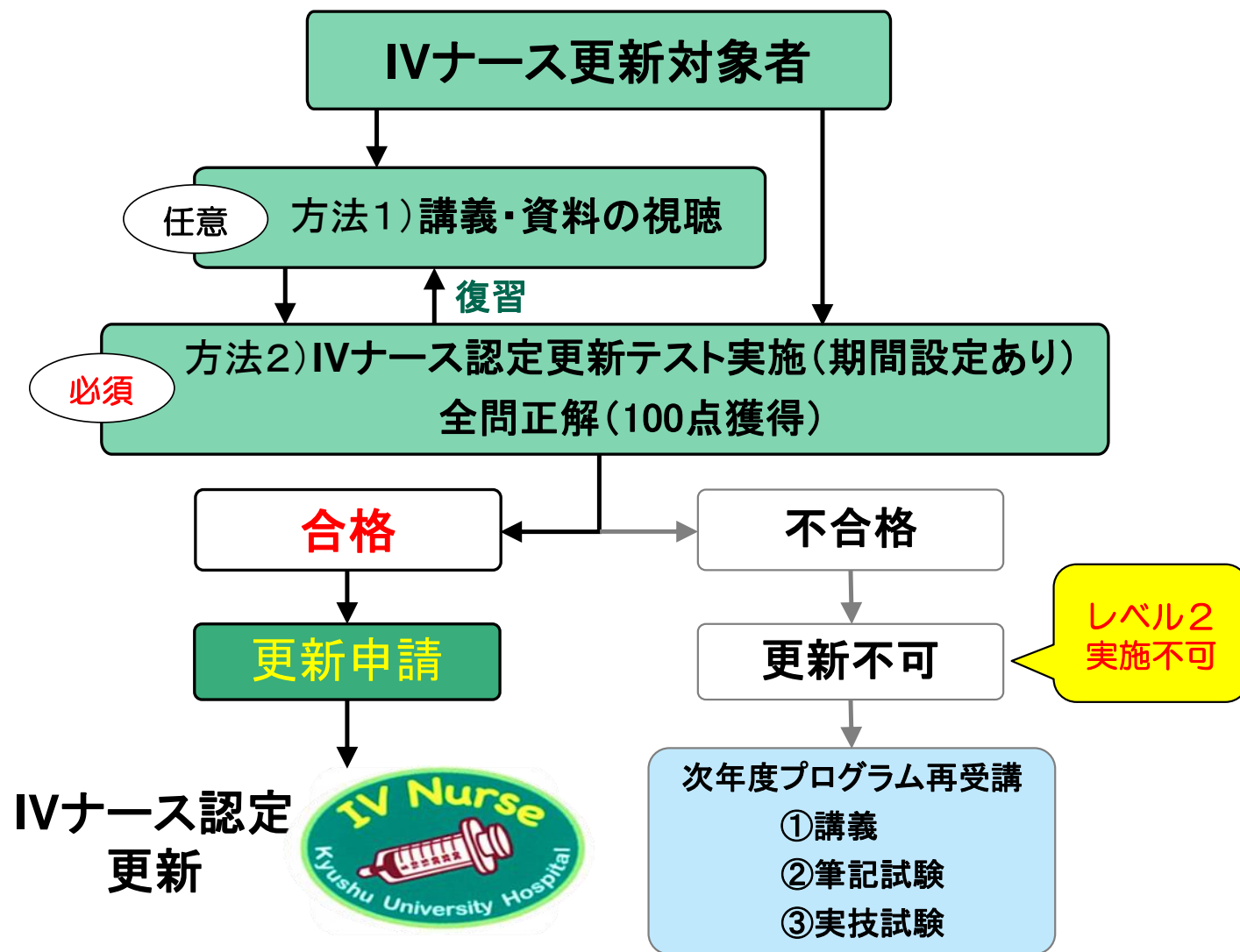
認定更新の条件は、知識確認試験に合格した者

◆方法

知識確認試験は、九州大学のWeb学習システムeラーニング内の「IVナース認定更新テスト」を使用し、全問正解(100点獲得)を必須としている

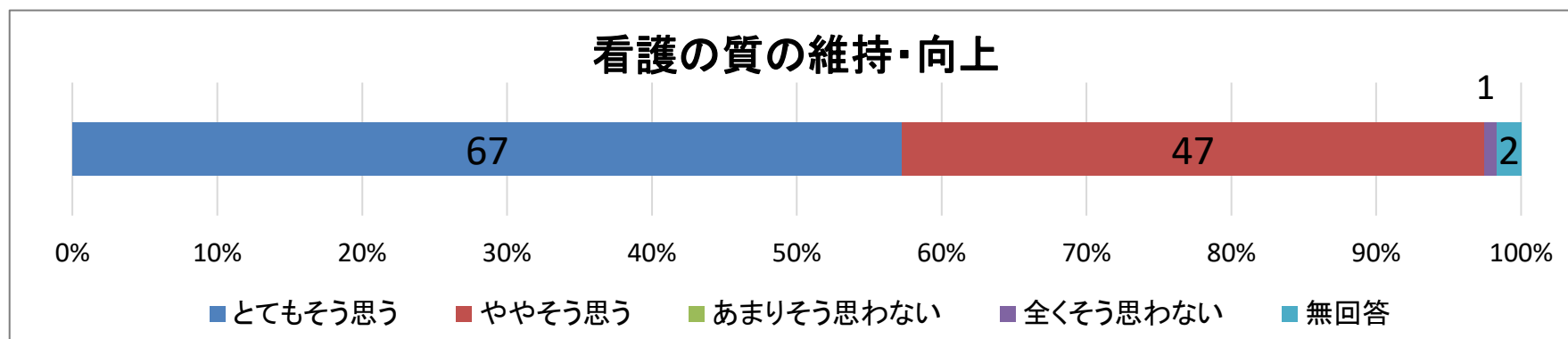
更新対象者全員が認定を更新できることを目標に、ワーキングで準備・実施のサポート・評価を実施。

認定更新制度フロー図



令和6年度

IVナース認定更新テスト後アンケート結果 (n=117)



更新者の95%以上が、認定更新制度は看護の質の維持・向上に繋がっていると思うと回答した。

アンケート自由記載(一部抜粋)

- ・IVナースを取得した時と現在では変化していることも多いため定期的に学習することは必要だと思う。
- ・投与したことのない薬剤については注意事項を忘れていたので確認できて良かった。

令和6年度(6月実施)

静脈注射認定看護師育成研修(静脈注射教育プログラム研修)

講義

地域へのプログラム公開を実施

講義公開の目的

地域の看護職員が参加することで、静脈注射実施に関する正しい知識を学び、日常看護業務に反映させることで、静脈注射の看護実践力向上に役立つ。

院内受講者:42名(別府病院4名、診療放射線技師2名含む)

院外受講者:38名(参加施設:13施設)

診療放射線技師法の一部改正に対応

アンケート自由記載(一部抜粋)

- 注射薬剤の取り扱いや、法的な看護師としての立場、感染対策など細かく学ぶことができた。
- 今まで漫然と実施していたことを明瞭にすることができた。



令和6年度(6月実施) 静脈注射認定看護師育成研修(静脈注射教育プログラム研修)

演習

実技演習公開の目的

各施設での指導的役割を担う看護職員を対象に、安全・安心な技術、看護ケアを実技演習を通じて確認してもらう。演習後は、それぞれの学習内容を活用して各施設の研修や教育計画等に役立てる。

院内受講者:36名(診療放射線技師2名含む)

院外受講者:30名(参加施設:10施設)

アンケート自由記載(一部抜粋)

- 自分自身の技術の向上ができた。自部署のスキル向上に努めたい。
- 指導者という立場でどのように根拠立てて説明すべきか再確認できた。スタッフ教育に活かしたい。



令和6年度 静脈注射認定看護師育成研修(1月実施)

受講者:令和6年度新卒看護職員134名、診療放射線技師1名

※講義のみzoomにて別府病院2名参加

講義

- 臨床大講堂で動画講義を視聴(一部対面講義)

演習

- 1人あたり90分間の演習を実施。
- 腕モデルを用いて、静脈留置針と翼状針の手技を演習。

筆記 試験

- 受験者全員が同時に受験できるよう、3つの会場に分けて実施。

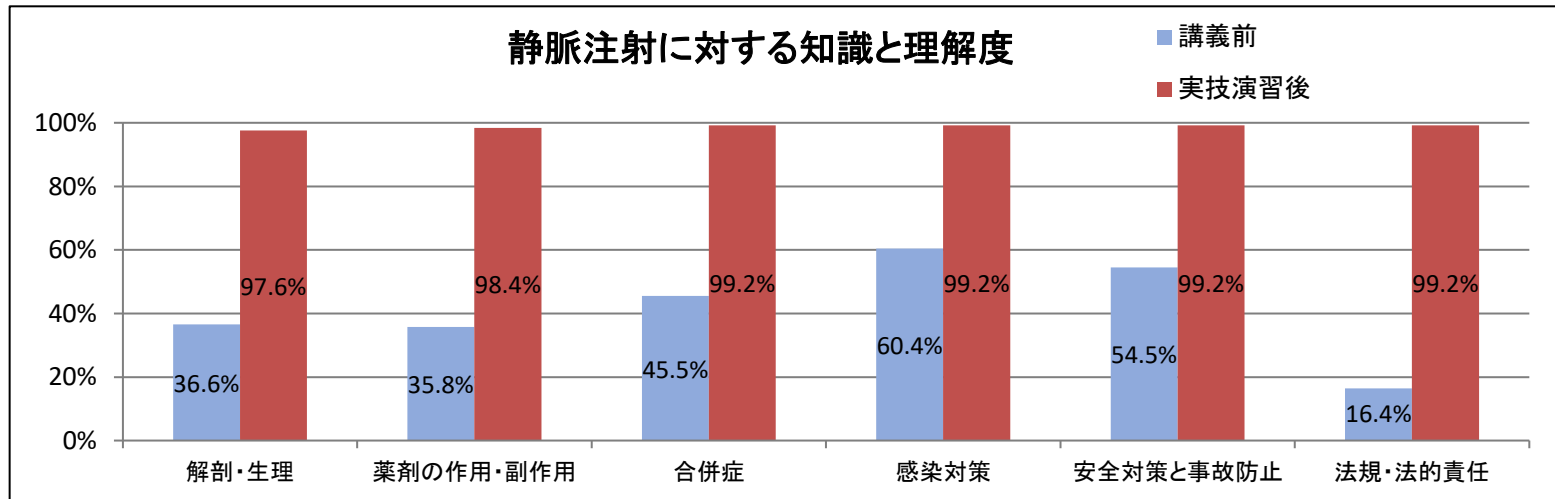


令和6年度 静脈注射認定看護師育成研修(1月実施)

アンケート結果

(講義前:n=134 回収率100%、実技演習後:n=125 回答率93.3%)

講義前と演習終了後に静脈注射に対する知識と理解度に関するアンケートを実施。6つの分野に対し、知識と理解度が「十分にある・まあまあある・あまりない・全くない」の4段階評価のうち、十分にある・まあまああると回答した者の割合を示す。



静脈注射に関する知識と理解度は、講義前から実技演習後ですべての項目において大きく上昇した。

アンケート自由記載(一部抜粋)

- ・講義から約1週間後に演習を行ったため、知識を活用し演習に挑むことができた。
- ・静脈注射は患者に侵襲を与える行為であり、重篤な合併症や副作用を伴うリスクもあるため、今回学んだ知識や技術を臨床と繋げながら実践に取り組みたい。

今後の課題

- 静脈注射教育プログラムとIVナース認定更新制度を継続し、静脈注射に関する看護の質を担保する。
- 静脈注射認定看護師育成研修内容を適宜評価し、知識・技術共に有意義に学ぶことのできる研修運営を継続する。
- 最新の情報を踏まえた教育内容の検討などを新たに活動内容へ加え、看護実践力向上に貢献する。